

委員会視察記録

委員会名	文化観光委員会
期 間	令和8年7月21日～22日
参加者	委員長 曳田 卓 副委員長 飯田 末夫 副委員長 天野多美子 委員 伊丹 雅治 委員 植田 徹 委員 増田 享大 委員 松井 優介 委員 沢田 智文 委員 木内 満
視察先	1 旧マッケンジー邸（静岡市駿河区高松） 2 フジビジネスジェット株式会社、静岡エアコミュータ株式会社（牧之原市坂口） 3 マウンテンバイクパーク F o r e c h a （周智郡森町問詰） 4 浜松マリオットホテル（浜松市中央区東伊場） 5 S W E E T S B A N K（浜松市中央区神田町） 6 浜松市役所（浜松市中央区元城町）

視察の概要

7月21日（火）

■ 旧マッケンジー邸

<概要>

国登録有形文化財「旧マッケンジー住宅」は、大正から昭和初期にかけて日本茶の海外輸出拡大等に貢献したアメリカ人の茶貿易商、ダンカン・J・マッケンジー夫妻の元邸宅である。

民間事業者により、令和8年3月に旧マッケンジー住宅と意匠を合わせた結婚式場等が隣接市有地に新設され、「HOMAM旧マッケンジー邸」として一体的な管理・運営が行われている。

民間事業者と静岡市は20年間の定期借地権と定期建物貸付契約を交わし、日常的な修繕は民間事業者が担当し、長期的な大規模修繕は市が負担する役割分担としている。

従来から静岡市では民間活力の導入に向けた検討が行われていたが、平成30年の文化財保護法の改正により、従来の保護から「保護と活用」の両輪に方針が変わり、地域の活性化や利用促進も視野に入れた運用に向けて、民間活



力の導入を進めた。

リニューアルオープン後、来館者数は大きく増加し、リニューアル前の年間約4,000人に対し、オープンから2か月間で約5,000人が来館した。

<主な質疑応答>

Q 結婚式場等の新館は民間事業者による建設か。

A 土地を静岡市が貸出し、民間事業者が建設した。

Q 市民からの反対はなかったか。

A 旧マッケンジー住宅の活用は地域からの要望であり、地域から協力を得た事業である。

■ フジビジネスジェット株式会社、静岡エアコミュタ株式会社

<概要>

フジビジネスジェット（株）は、静岡空港を拠点に、質の高い航空運送事業を展開し、静岡空港内で専用の格納庫（3,600平方メートル）及び駐機スペース（4,800平方メートル）を保有している。



2024年末時点で、日本国内に登録されているビジネスジェットは84機であり、他国と比較して非常に少ない。そのうち民間で登録されている約60機強のうち、5.7トン以上（中型・大型機）の機体を保有し、さらに自社で機体整備と運航の両方を行える企業は、日本国内にフジビジネスジェットを含めて2社に限られる。

運航時間や路線に縛られず、利用客のスケジュールに合わせて柔軟に運航が可能なビジネスジェットの発着は地方空港でも拡大しており、受入体制の整備も進んできている。

静岡エアコミュタ（株）は、静岡県防災ヘリコプターの運航受託、ドクターヘリのお他県への広域支援、報道ヘリの運航業務等を行っている。昨年、航空整備部門を分割し、静岡航空整備（株）（SAMCO）を設立した。ヨーロッパの基準を満たす設備の下、グローバル品質と効率的な機体整備を提供している。

■ マウンテンバイクパークForecha

<概要>

マウンテンバイクパークForechaは、ヤマハ発動機（株）が令和8年5月に開業したマウンテンバイクの体験型施設であり、マウンテンバイクを通じて山と街、人々を繋ぐハブとなることを目指している。

森町と令和7年3月に地域包括連携協定を締結し、マウンテンバイクを核と

したフィールド整備や地域活性化を実施している。

マウンテンバイクは、世界で2,000万人の愛好家がいると言われるが、日本では5万人と推計されており、国土森林面積比で見たマウンテンバイク人口が欧米諸国に比べて日本は少ない。マウンテンバイク人口拡大には、マウンテンバイクの導入拠点と山道トレイル網が不可欠であり、山林が多い日本はポテンシャルが高く、マウンテンバイクの振興は中山間地域創生にも寄与すると考えている。



<主な質疑応答>

Q マウンテンバイクのターゲット層は。

A マウンテンバイクは車体や用具にお金がかかるスポーツであるため、資金に余裕のある40代～50代が中心である。近年は電動アシスト付マウンテンバイクが普及したことで体力的なハンデがほぼ無くなり、20代の若者から60代以上のシニア層まで、裾野が広がっている。

7月22日（水）

■ 浜松マリオットホテル

<概要>

浜松マリオットホテルは、ホテルマネジメントインターナショナル（株）がマリオットインターナショナルとのパートナーシップ提携により、旧グランドホテル浜松をマリオットブランドにリブランドし、令和8年5月に開業した。



総客室数は236室で、開業に当たりマリオットのグローバル基準に合わせて全ての客室を改装した。

今回のリブランドでは、長年地域で培われた温かいおもてなしとマリオットの国際的なホスピタリティ基準を高い次元で融合させることを目指し、マリオットの高度なシステム導入に加え、スタッフの教育に注力している。

グランドホテル浜松の時代と比較して、海外からのインバウンド客やマリオット会員が浜松マリオットホテルを選んで宿泊するケースが増えており、今後も右肩上がり成長することを期待している。

浜松マリオットホテルとして単にホテルの売上を追うのではなく、浜松市、静岡県、各観光協会や地元企業と密接に連携しながら、地域経済全体を潤す一

翼を担いたいと考えている。

<主な質疑応答>

Q 現在、インバウンド客の比率はどのくらいか。

A 現時点で約 20%がインバウンド利用となっている。

Q インバウンド客の利用において、ビジネス目的とレジャー目的の割合はどうか。また団体ツアーはあるか。

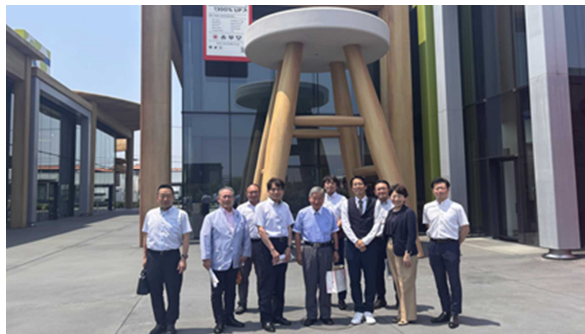
A 現時点では、個人観光客が多い。浜松市はスズキやヤマハといった世界的な企業や工場が集積するビジネス都市であり、ビジネス出張の潜在需要が非常に高いエリアであるが、現状はレジャーがメインである。来年度に向けて海外からの団体グループの問い合わせもあり、今後は団体客も増える見込みである。

■ SWEETS BANK

<概要>

有限会社春華堂は、創業から 139 年目を迎える老舗菓子メーカー。当時、浜松で馴染みの深かった浜納豆と語感が似ており、言葉の響きから広く受け入れられやすいだろうという理由で甘納豆の製造販売からスタートした。

2021 年に「食や家族のコミュニティを発信する交流施設」として SWEETS BANK を開設し、巨大なダイニングテーブルや椅子など、独創的な外観・内観のデザインを特徴とし、浜松を代表するスポットとして、年間を通じて多くの観光客や地域住民が訪れている。



敷地内には、パートナー企業である浜松磐田信用金庫の店舗も併設されている。

■ 浜松市役所

<概要>

浜松市は、「新世紀エヴァンゲリオン」を活用した誘客促進事業により、令和 8 年 3 月内閣府コンテンツ地方創生拠点に選定され、アニメコンテンツ「エヴァンゲリオン」を活用した事業を実施することで、地域の観光消費額を増加させ、地域経済の活性化を図っている。



シン・エヴァンゲリオン劇場版に、天竜浜名湖鉄道の天竜二俣駅をモデルとした「第3村」が登場したことを契機に、浜松市や天浜線、遠州鉄道など地域一帯での大型コラボレーションが始動した。

テレビアニメ放映当時（1995年頃～）から熱心なファン層である40代以上の男性から、劇場版を鑑賞した比較的若い世代（20代～30代）の男女まで、極めて幅広い層が聖地巡礼として浜松を訪れている。昨年度の経済波及効果は11.1億円であり、今年度も10月から天竜エリアをはじめ、浜名湖・舘山寺エリア、浜松市中心部をつなぐまち巡り大型イベントを開催する。

<主な質疑応答>

Q 天浜線や浜松でのエヴァンゲリオンのコラボレーションは、全国的にも成功した事例だと思うが、これはどこが主導して始まったものなのか。浜松市が主導したのか、あるいは制作側からのアプローチだったのか。

A もともとの発端は、エヴァンゲリオンの監督である庵野秀明監督がロケハンのために天竜二俣駅を訪れ、その古い転車台や歴史的な駅舎、街並みを非常に気に入られたこと。監督自らが撮影した現地の写真や風景をモデルに「第3村」のデザインが描き起こされたため、アニメが公開された段階で最初からここが舞台であるということが決定していた。

Q パワーコンテンツであっても成功するコラボレーションとそうならないものがあるが、差はどこにあると感じているか。

A 世界観の共有が最も重要であると確信している。作品を深く理解し、その世界観を尊重して共創することこそが、パワーコンテンツの魅力を最大化する仕掛けである。